

# Economic Indicators

発表日: 2022年8月12日(金)

## 主要経済指標予定(2022年8月15日~8月19日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部  
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(8月15日~8月19日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
8月15日 (月)	8:50 4-6月期 GDP1 次速報				
	実質 GDP 成長率 (前期比)	+0.7%	+0.7%	+0.1%~+0.9%	▲0.1%
	(同年率)	+3.0%	+2.7%	+0.5%~+3.6%	▲0.5%
	名目 GDP 成長率 (前期比)	+0.4%	+0.6%	▲0.1%~+3.6%	+0.2%
	GDP デフレーター (前年比)	▲0.8%	▲0.8%	▲1.6%~+2.2%	▲0.5%
	13:30 6月鉱工業指数・確報				
	鉱工業生産指数 (前月比)	—	—	—	+8.9%
	(前年比)	—	—	—	▲3.1%
	稼働率指数 (前月比)	—	—	—	▲9.2%
	生産能力指数 (前年比)	—	—	—	▲1.2%
13:30 6月商業動態統計・確報					
小売業販売額 (前年比)	—	—	—	+1.5%	
8月16日 (火)	13:30 6月第3次産業活動指数				
	(前月比)	+0.1%	+0.4%	▲0.3%~+1.4%	+0.8%
(前年比)	+2.1%	—	—	+3.6%	
8月17日 (水)	8:00 8月ロイター短観				
	製造業DI	—	—	—	9
	非製造業DI	—	—	—	14
	8:50 6月機械受注統計				
	船電除く民需 (前月比)	+2.0%	+0.9%	▲5.5%~+6.0%	▲5.6%
	(前年比)	+7.9%	+7.5%	+1.6%~+13.9%	+7.4%
	8:50 7月貿易統計				
輸出金額 (前年比)	+19.9%	+17.6%	+6.8%~+20.8%	+19.3%	
輸入金額 (前年比)	+50.5%	+45.5%	+12.8%~+55.0%	+46.1%	
貿易収支 (原数値、億円)	▲15,966	▲13,625	▲19,470~▲11,200	▲13,985	
8月18日 (木)					
8月19日 (金)	8:30 7月消費者物価指数 (全国)				
	全国コア (前年比)	+2.3%	+2.4%	+2.0%~+2.5%	+2.2%
	全国総合 (前年比)	+2.5%	+2.6%	+2.3%~+2.7%	+2.4%

**4-6月期GDP 1次速報・実質GDP成長率** 当社予想：前期比年率+3.0% 中央値：同+2.7%

前期比年率+2.9%（前期比+0.7%）と、2四半期ぶりのプラス成長を予想。中国のロックダウンの影響により輸出は足踏みとなった一方、個人消費が大幅に増加し、成長を牽引した。1-3月期にはオミクロン株の急拡大によりサービス消費が抑制されていたが、その後の感染者数の抑制とまん延防止等重点措置の全面解除を受けて、飲食や旅行、レジャー等、それまで抑えられていた分野を中心としてリバウンドが生じ、個人消費は高い伸びとなったとみられる。その他、設備投資が前期の反動もあって増加に転じたことや、公共投資が下げ止まったこと等も押し上げに寄与したとみられる。（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

**6月第3次産業活動指数** 当社予想：前月比+0.1% 中央値：同+0.4%

6月の第3次産業活動指数は、前月比+0.1%の小幅の上昇を予想する。前月に大幅上昇となった生活娯楽関連サービスが反動減となったほか、建設資材価格の上昇等の影響で住宅売買が回復しない不動産で低下が続き、景気持ち直しの足を引っ張ったとみられる。先行きは、7月以降の国内感染再拡大により、対面型サービスを中心に落ち込みが見込まれる。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

**6月機械受注・船舶電力除く民需** 当社予想：前月比+2.0% 中央値：同+0.9%

6月の機械受注（船舶電力除く民需）は、前月比+2.0%を予想する。中国でのロックダウン解除や感染状況の改善を背景に、製造業・非製造業共に増加が見込まれる。先行きについて、増加傾向での推移を見込むが、世界的なインフレやそれに伴う早いペースでの金融引き締めがもたらす景気後退懸念や感染状況の急激な悪化など、企業を取り巻く不透明感の高まりから、回復ペースは緩やかなものに止まるだろう。

（主任エコノミスト：小池 理人）

**7月貿易統計・貿易収支額（原数値）** 当社予想：▲15,966億円 中央値：▲13,625億円

7月の貿易収支を、▲18,320億の赤字（季節調整値）と予想する。7月の実質輸出は、中国のロックダウンの影響が和らいだことで輸送用機器が回復し前月比で上昇したとみるが、米国向けの減速が加わり持ち直しペースは緩慢なものに留まったとみられる。輸入が輸出の伸びを上回り、貿易赤字は拡大した見込み。先行きは、急速な金融引き締めやウクライナ情勢の影響を受ける米国、欧州の景気後退懸念が強まっており、輸出の下押しとなる可能性が高い。当面は高水準での貿易赤字が続くとみる。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

**7月全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合）** 当社予想：前年比+2.3% 中央値：同+2.4%

CPI コアは前年比+2.3%と、前月からやや伸びが高まると予想する。食料品値上げが一段と進んだことに加え、携帯電話機の値上げも押し上げ要因となる見込み。今後も食料品価格上昇は続くと考えられ、CPIは先行きさらに伸びを高める可能性が高い。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

図表1

## 2022年4-6月期GDP予測

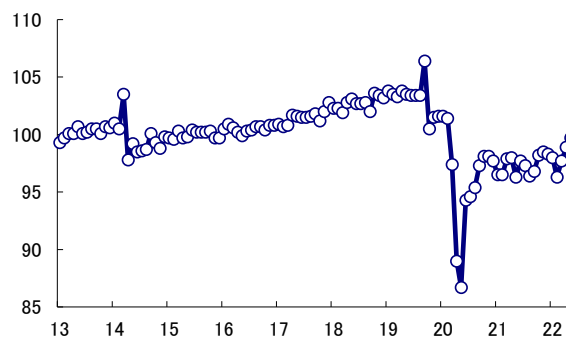
(%)	
実質GDP	0.7
(前期比年率)	3.0
内需寄与度	0.7
(うち民間)	0.6
(うち公需)	0.1
外需寄与度	0.1
民間最終消費支出	1.5
民間住宅	▲ 1.9
民間企業設備	0.9
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.3
政府最終消費支出	0.2
公的固定資本形成	1.4
財貨・サービスの輸出	0.4
財貨・サービスの輸入	0.1

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

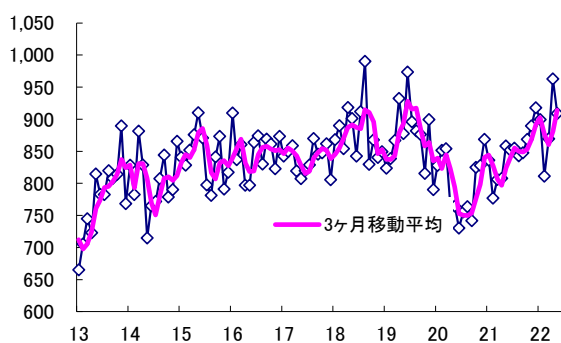
図表2

## (2015年=100) 第3次産業活動指数(季節調整値)



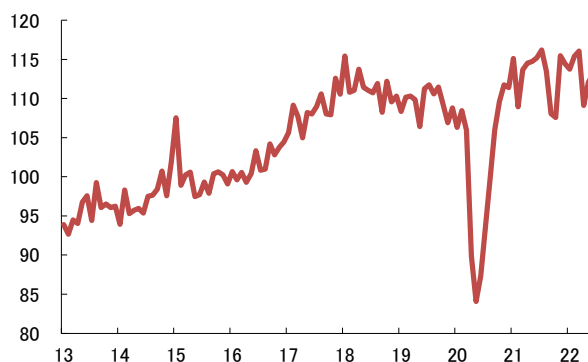
(出所)経済産業省「第3次産業活動指数」

図表3

機械受注  
(10億円) 船舶・電力除く民需(季節調整値)

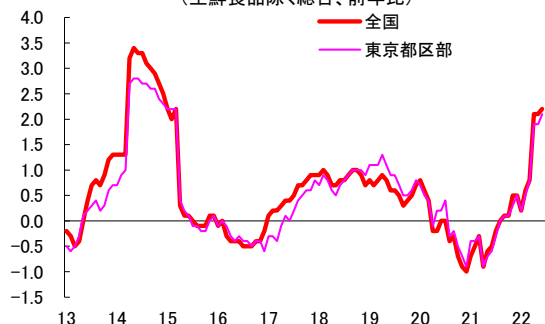
(出所)内閣府「機械受注統計」

図表4

(2015年=100) 実質輸出  
(季節調整値、日本銀行作成)

(出所)日本銀行「実質輸出入」

図表5

消費者物価指数  
(生鮮食品除く総合、前年比)

(出所)総務省「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。